

知ることから始まる

《2026年》
8/7

白糠町権利擁護センター 町民セミナー

町社会福祉協議会（岸本秀彦会長）と町権利擁護センターが主催する「あなたの『もしも』に備えるセミナー」が社会福祉センターで開催されました。

北海道社会福祉協議会の戸嶋信司さんが講師を務め、認知症や成年後見制度等について分かりやすく説明しました。参加者からは「地域みんなで支え合うことについて考える機会になりました」という声が挙がりました。



実際の事例を交えながら話す戸嶋さん

オリジナルバッグを作成

《2026年》
8/7

アイヌ文様 刺しゅう講座

アイヌ文様をあしらったバッグを作る「アイヌ文様刺しゅう講座」が計10日間、ウレシパチセで開催され、伝統的な技法を体験しようと12人が参加しました。

参加者はアイヌ文化保存会による指導の下、芯となる糸を縫うのではなく上から留めていく「イカカリ」と呼ばれる技法で、美しくも力強い輪郭のある刺しゅうを施したバッグを制作しました。



真剣な眼差しでバッグを作る参加者たち

広がる踊りと笑顔の輪

《2026年》
8/14

西庶路連合町内会 盆踊り大会

西庶路連合町内会（鶴田哲明会長）の「盆踊り大会」が西庶路錦公園で開催されました。

子ども盆踊りでは子どもたちが元気いっぱい踊りを披露し、おなじみの西庶路音頭では世代を超えた踊りの輪ができました。大人盆踊りの仮装踊りではユニークな仮装の参加者が会場を盛り上げるなど、参加者は音頭にあわせて踊り、にぎやかなひとときを楽しみました。



やぐらを囲んで輪を作る参加者

一筆一筆に思いを込めて

《2026年》
8/11

小中学生席書大会

白糠書道連盟主催の小中学生席書大会が社会福祉センターで開催されました。

今年は32人が参加し、使用できる半紙が5枚という制限の中、「栄光」「信頼」など、学年ごとに異なる課題文字を書きあげました。書道連盟賞に輝いた庶路学園6年の本間結里さんは「課題文字が難しかったので賞を取ることができてうれしい」と笑顔でした。



一筆一筆に集中し、作品を完成させる参加者